

平成27年度

**土器川における
水害に強いまちづくり検討**

**第3回
水害に強いまちづくりワークショップ**

開催報告(詳報)

国土交通省 香川河川国道事務所

「水害に強いまちづくり検討・ワークショップ」の概要

◆背景とねらい

＜背景＞

- ▶全国各地で大規模水害が発生しているとともに、地球温暖化に伴う気候変化の影響により大規模水害の発生が懸念されている。
- ▶大規模災害を想定して、香川地域継続計画の検討が進められている。
- ▶平成25年度より、土器川をケーススタディとした大規模水災害対策の検討を継続して取り組んでいる。

＜本ワークショップの位置付け＞

- ▶大規模水害発生後の“**地域の生き残り計画**”について、“**住民目線**”で議論する先進的な取り組み
- ▶“**上下流の地域が一体**”の広域的な取り組みを進める中で、土器川沿川の**モデル地区を対象**とした検討

＜本ワークショップのねらい＞

- ▶土器川流域において、“**水害に強いまちづくり**”を目指した流域・地域で一体となった大規模水害対策を推進
- ▶流域住民等の意見集約、情報共有、共通認識の醸成

◆検討組織と役割(3つの組織)

- ワークショップ（事務局：国交省）検討のための意見集約・情報共有
- 検討会（事務局：国交省）：とりまとめ書」の検討
- 協議会（事務局：香川大学）：連携・サポート
 - ・大規模水害対策ワークショップ（ワークショップ）
 - ・大規模水災害に適應した対策検討会（検討会）
 - ・香川地域継続検討協議会（協議会）

◆ワークショップの対象

- 土器川下流部右岸モデル地域：丸亀市土器町東地区・北地区
 - 検討対象の想定被害：内水による浸水～土砂災害～堤防決壊に伴う大規模水害
 - ・土器川では大正元年に堤防決壊の発生の記録がある
 - ・近年、他県で実際に堤防決壊事例が多発
- (H24年7月九州北部、H16年7月新潟・福島、H27年9月茨城 ほか)

「水害に強いまちづくり検討・ワークショップ」の流れ

【大規模水災害に適応した対策検討会】 ⇄ 【香川地域継続検討協議会】

【香川河川国道事務所】

平成25年度

＜ステップ1＞：大規模水害対策の方向性とまとめ

・「土器川における大規模水害に適応した対策検討とりまとめ書(案)」を協議会で承認

- ・住民ワークショップの開催
- ・検討会の開催
- ・「とりまとめ書(案)」の作成

【水害に強いまちづくり検討会】 ⇄ 【香川地域継続検討協議会】

＜ステップ2＞：“水害に強いまちづくり”のためのアクションプラン検討【行政】

◆平成26年度

・検討の場：「土器川における水害に強いまちづくり検討会」
(事務局：香川河川国道事務所)

・検討内容：

- 【テーマ1】住民目線での災害情報のあり方
- 【テーマ2】地域コミュニティの活性化と地域連携体制の強化
- 【テーマ3】避難の実効性確保のためのハード・ソフト整備
- ★大規模水害に関するタイムライン(防災行動計画)

・検討方法：代表市町による「検討部会」を設置し、モデル地区を対象として検討(行政、香川大学で検討)

南海トラフ巨大地震を想定した地域継続計画(DCP)の検討

◆平成26年度

・検討の場：「香川地域継続検討協議会」(事務局：香川大学危機管理研究センター)

・検討内容：アクションプラン検討

◆平成27年度

・検討内容：香川地域におけるアクションプランの実践、四国DCP検討等

- ・検討部会、住民ワークショップの開催
- ・検討会の開催
- ・アクションプラン【行動計画書(案)】の作成

協議会での成果(ノウハウ)

関係市町・関係機関とのキャッチボール

“行政での検討”から“行政と住民での検討”へ

＜ステップ3＞：“水害に強いまちづくり”のためのアクションプラン検討【住民】

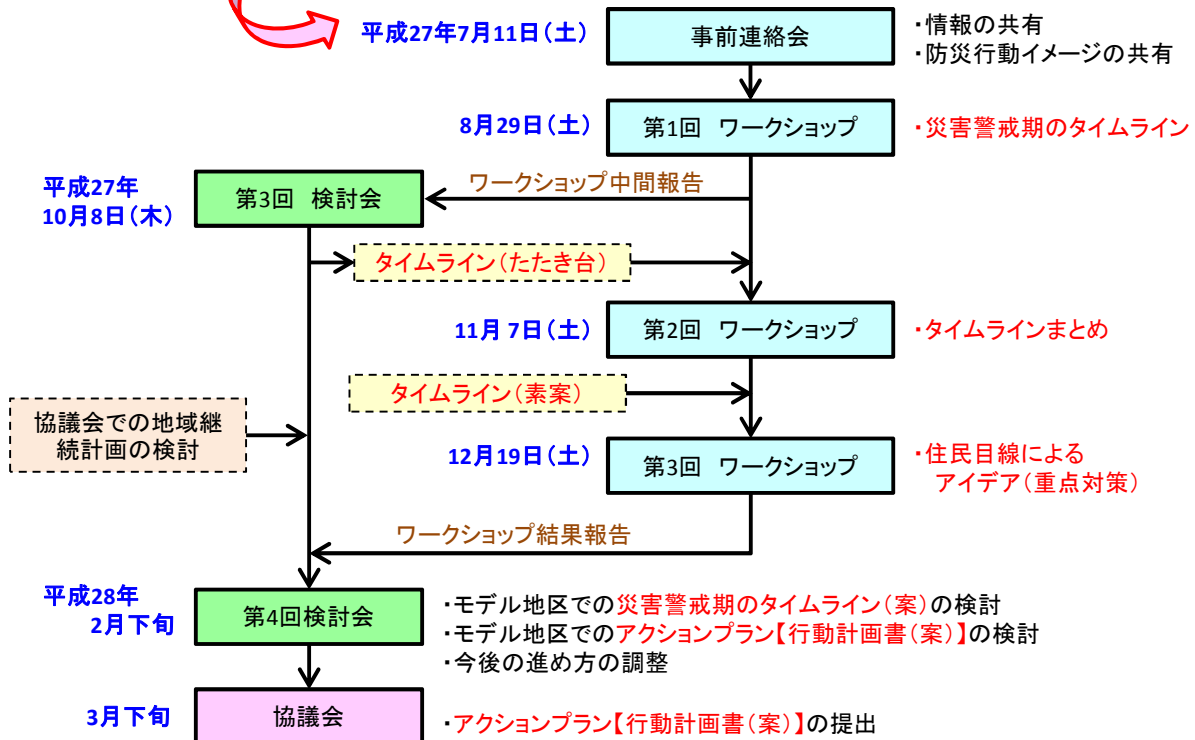
◆平成27年度～28年度

- ・検討内容：大規模水害に関するタイムライン(防災行動計画)
- ・検討方法：モデル地区における「住民ワークショップ」を実施し、住民目線でタイムラインを具体化(住民、行政で検討)
⇒住民意見を踏まえ、アクションプラン(案)をブラッシュアップ

＜ステップ4＞：流域・地域で一体となった大規模水害対策の実施

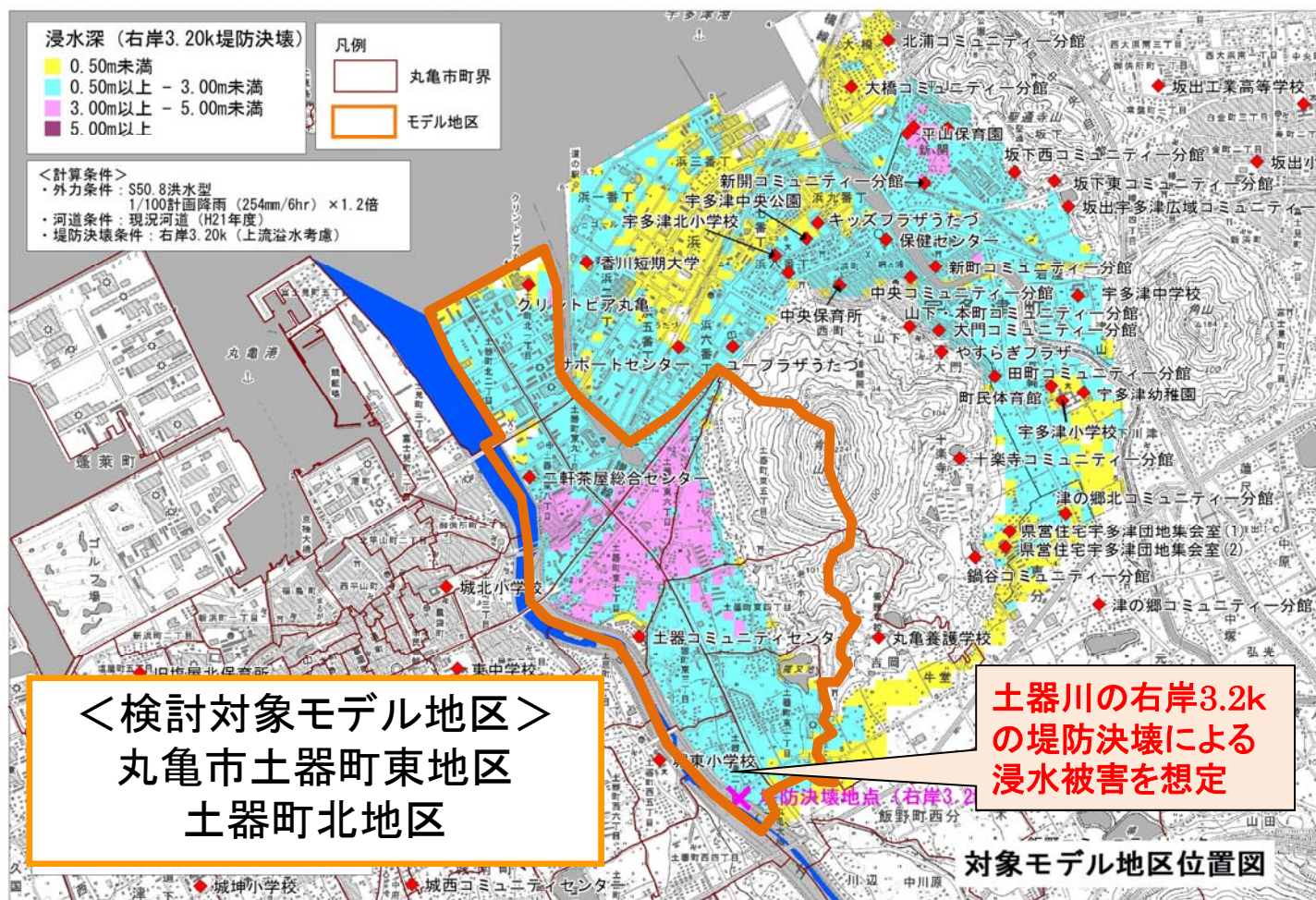
◆平成29年度以降の予定

- ・「アクションプラン(案)」に基づく、各主体での着実な事業推進
- ・「とりまとめ書(案)」および「アクションプラン(案)」に基づく、他地域や他機関への展開



平成27年度の検討会・ワークショップの流れ

「水害に強いまちづくりワークショップ」の構成



ワークショップの検討対象モデル地区の参加人員構成

テーブル番号	属性	ワークショップ参加人数	
テーブル1	自治会グループ（自治会長、自治会役員）	参加者：7名 進行者等：3名	計10名 （内欠席3名）
テーブル2	自主防災会他混合グループ（自主防災会、水利組合、元消防士等）	参加者：6名 進行者等：4名	計10名 （内欠席2名）
テーブル3	若手・女性混合グループ（小学校PTA、保育所保護者会、婦人防火クラブ、民生委員等）	参加者：7名 進行者等：3名	計10名 （内欠席1名）
テーブル4	女性グループ（幼稚園PTA、小学校PTA、中学校PTA、自治会員）	参加者：6名 進行者等：4名	計10名
テーブル5	事業所グループ（丸亀市民病院、地元事業者）	参加者：6名 進行者等：3名	計9名 （内欠席1名）
			合計49名 （内欠席7名）

注1)ワークショップ参加者は、検討対象モデル地区にお住まいの方々（1テーブルに約7名）を対象とした。

注2)「進行者等」は、進行者、記録者、補助者の3～4名。

「第3回 ワークショップ」開催の様子

- ・『第3回 水害に強いまちづくりワークショップ』を開催しました。
- ・ワークショップは、ファシリテータの進行により、大規模な被害想定の確認やモデル地区の浸水特性等の情報共有、本ワークショップのテーマに関する各検討を実施しました。

◆開催日時 : 平成27年12月19日(土) 14:00~16:30
◆開催場所 : 丸亀市民会館 中ホール



「検討会」会長の挨拶



ファシリテータによる進行



会場の様子



タイムライン(素案)の検討



重点対策(共助)の検討



テーブル発表(代表テーブル)

情報の共有

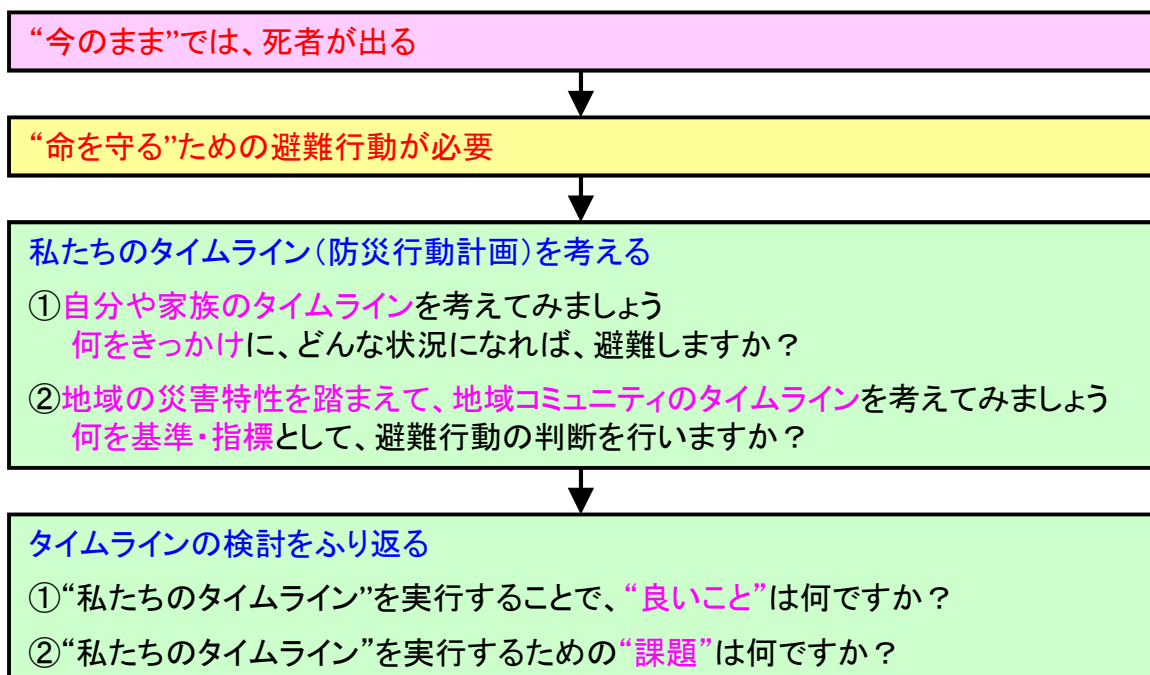
土器川モデル地区(土器町東・北)における 住民タイムライン(素案)

◆第1回および第2回ワークショップにおける参加住民の意見や自助・共助タイムライン検討結果をとりまとめた「住民タイムライン(素案)」について、避難行動のきっかけやタイミング、必要な情報等をテーブル毎に共有し、住民タイムライン(素案)の内容を検討の流れとともに再確認しました。

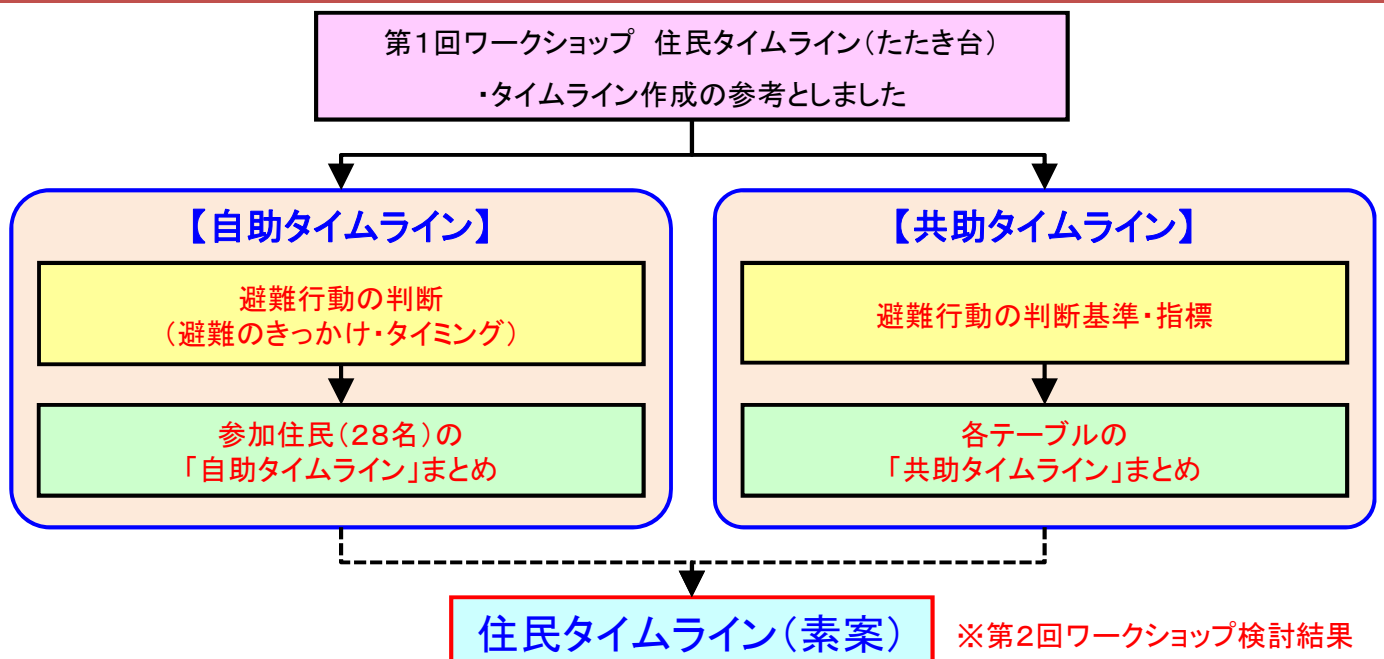
第2回ワークショップ検討の内容

〈検討テーマ〉: “命を守る”ための避難行動

～タイムラインに従って行動すれば、安全に避難できるか～



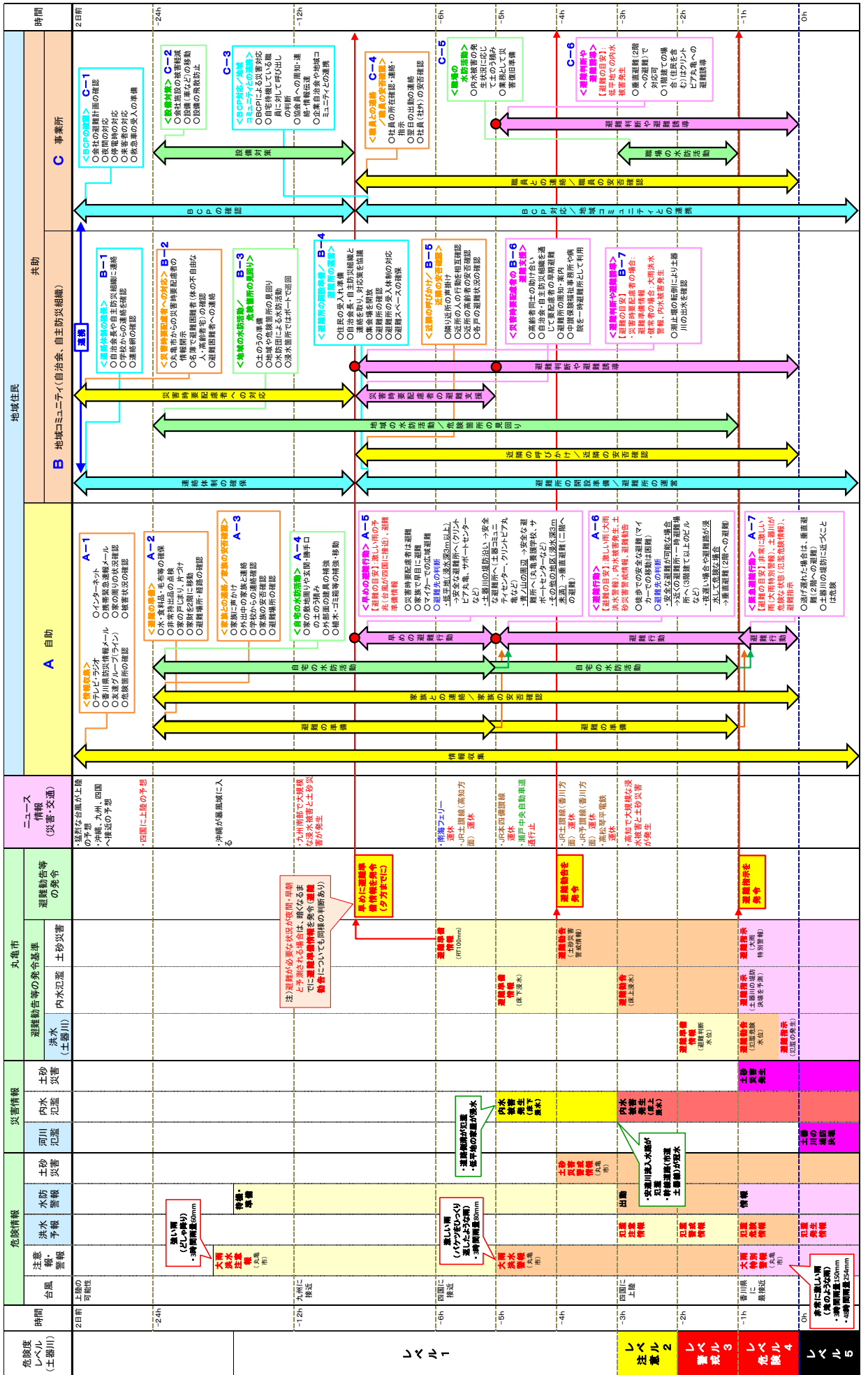
第2回ワークショップ検討結果のまとめ方



※第2回ワークショップ検討結果

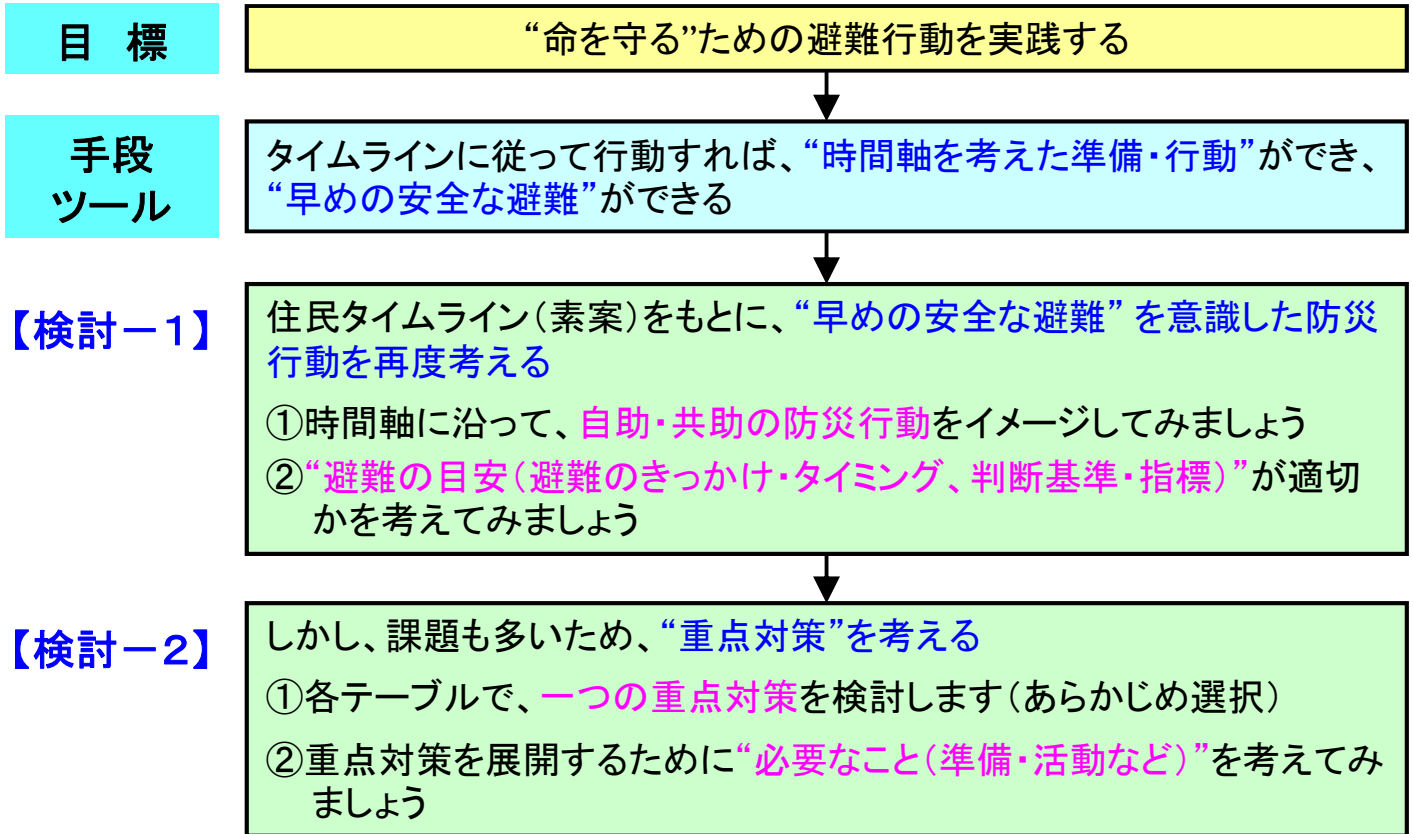
情報の共有

土器川モテル地区(土器町東・北)における住民タイムライン(素案)

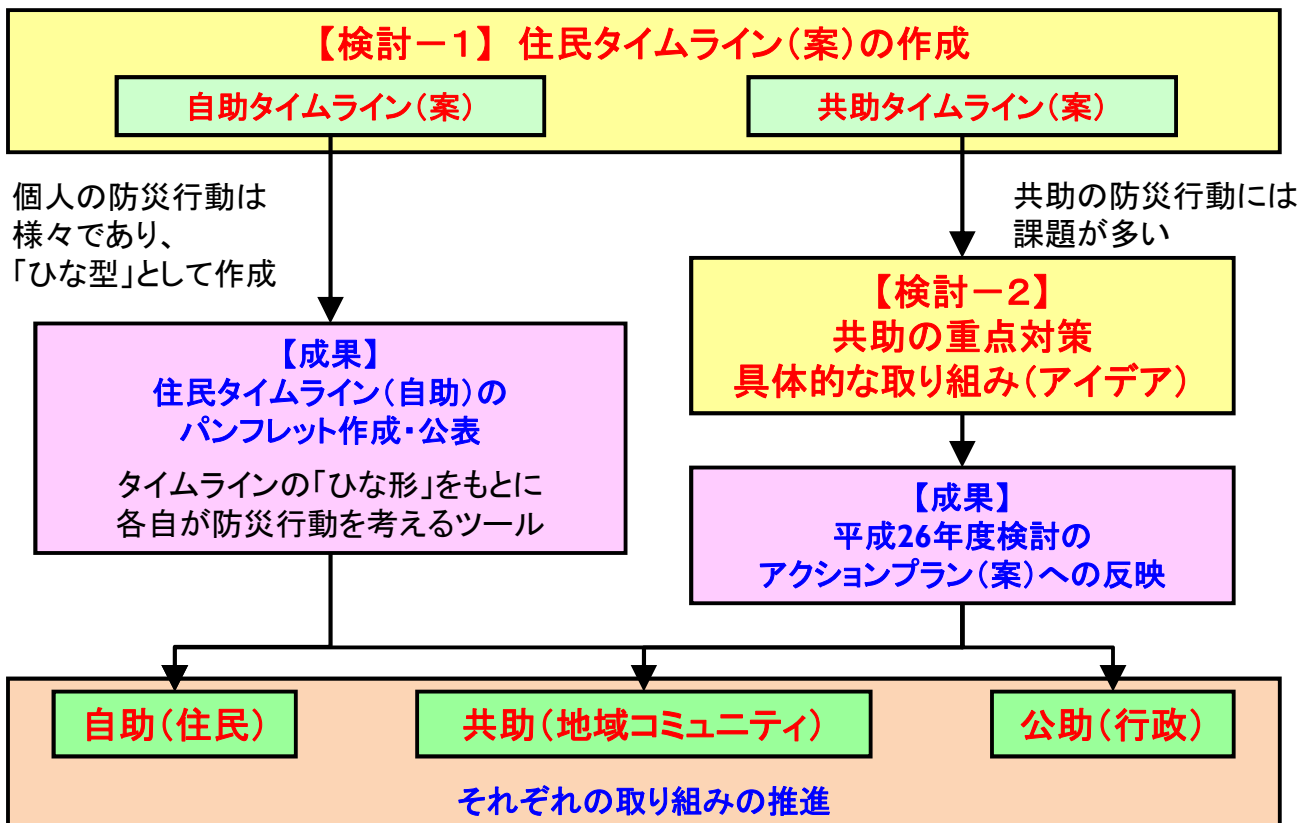


第3回ワークショップの検討内容

＜検討テーマ＞：“水害に強いまちづくり”のための
住民タイムライン作成と重点対策
 ～私たちが出来ることから、始めよう～



第3回ワークショップ検討結果のまとめ方



【検討－1】住民タイムライン(案)に向けて

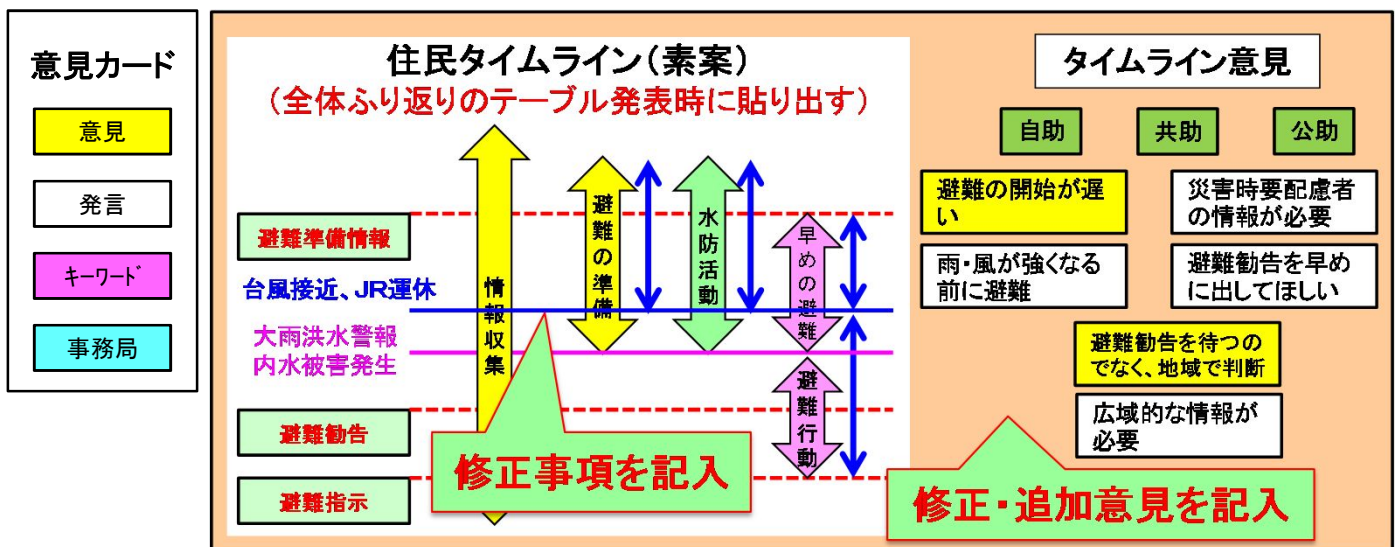
【検討－1】住民タイムライン(素案)の検討

～“**早めの安全な避難**”を意識した防災行動を

もう一度、考えてみましょう～

- ①時間軸に沿って、**自助・共助の防災行動**をイメージする
- ②自分の住まいや職場を基準にして、“**避難の目安(避難のきっかけ・タイミング、判断基準・指標)**”が適切かを考える

◆タイムラインシートに記入、意見カードに記入



タイムラインを考える上での留意点

【土器川の河川特性およびモデル地区の災害特性】

- ・土器川は、急流河川であり、**水位上昇が非常に早い**。
- ・低平地では3m以上の浸水、土器川堤防沿いでは家屋倒壊、青ノ山周辺では土砂災害が発生する危険性がある。

【避難の目安(避難のきっかけ、タイミング)】

- ・大規模な水害は、土器川流域でも起こり得るとの危機意識を持ち、**最悪の事態を想定して**、防災行動を考える。
- ・土器川の堤防決壊場所や時刻はわからないため、**堤防決壊時刻からの逆算はできない**。
- ・“リアルタイムで得られる情報(①気象情報や交通途絶情報の広域的な情報、②土器川水位や内水被害の身近な情報)”をもとに判断する。

【土器町東・北の地域特性を踏まえた避難行動】

- ・“**命と財産を守るための早めの避難行動**”が必要。
- ・特に、“**マイカーでの避難**”は、道路の浸水や渋滞により避難所にたどり着けない危険性があるため、“**早めの避難行動**”が必要。
(事例)鬼怒川の堤防決壊時にも、道路が渋滞し、避難所にたどり着けず

【検討-1】住民タイムライン(素案)への意見

地域住民(自助)	地域コミュニティ(共助)	事業所(共助)	行政への要望(公助)
<p>●情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集する意識が必要 ・青ノ山の土砂崩れの情報が必要 ・防災情報メールでは情報を選択 ・潮の干満時間の情報(満潮時が浸水しやすい) ・現場にいるため、避難準備情報が届かない <p>●避難の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のバイオ情報(血液型、病歴)を持つ ・安心キットが家族で1本必要 ・救助要請旗を作る ・避難済み旗を出して避難 ・注意報でいつでも避難できる準備 ・避難場所を個々に決めておく ・一時避難場所の確認 ・避難所までの経路の確認 ・土器コミュニティセンターへの避難経路には危険箇所が多い <p>●早めの避難行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間前では早すぎる ・経験のない状況での避難 ・避難開始を早めるため、危機感をあおる ・注意報レベルで避難した方が良い ・学校での基準も見直しが必要か ・学校から子供が帰る、または学校が休みで、やっとな避難 ・他の自治体施設へ避難 ・対岸(左岸側)への避難(城北小学校など) ・避難場所の選択は自主判断 <p>●避難行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土器川の水位状況が避難判断の大きな要素(台風情報だけでは判断ができない) ・避難勧告が出たタイミングで家族連携 ・車で避難するか、徒歩で避難するか(雨の状況、距離、時間によって変わる) ・市の情報が一番の判断基準 ・市と気象庁では、受ける感覚が違う ・香川県中讃保健福祉事務所へ逃げる ・青ノ山保育所へは個々の判断で避難(なお、土砂災害の危険がある場合、市は開設しない) ・空振りでも行政を責めない ・避難勧告での避難行動で良いのでは 	<p>●連絡体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣近所で声かけしやすい体制を作る ・地域住民との連絡も必要(事業所) ・連絡網が必要 ・一晩、避難所で過ごせば意識が変わる <p>●避難所の開設準備/避難所の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の開設にも時間がかかる <p>●近隣の呼びかけ/近隣の安否確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所に声かけ、手助け <p>●地域の水防活動/危険箇所の見回り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水が堤防を越える箇所がわかれば、対応できると ・堤防の弱いところを周知 <p>●災害時要配慮者の避難支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を背負うリュックを用意 ・アマチュア無線所有者の協力 ・丸亀病院の入院患者は垂直避難 <p>●地域コミュニティによる避難判断や避難誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水位による避難判断 ・特別警報が避難のタイミング ・警報と学校連絡(下校時間)の関係は？ ・いつ堤防が切れるかわからない ・報道による高知の災害情報を見ると良い ・各種情報から適切な判断ができるようにする <p>が、最後は自分の判断で行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷いがあれば垂直避難 ・弱者は避難に時間がかかる ・自分が避難していないので説得力がない(勧めにくい) ・避難勧告のタイミングでも、避難の協力が得られないかも ・避難ギリギリで、一気に行動する ・近所の個人宅3Fへ避難 ・避難勧告が一番の判断基準 ・予測情報で判断 ・避難する明確な理由が必要 	<p>●BCP(事業継続計画)の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業継続を図りながら、避難準備 <p>●BCP対応/地域コミュニティとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸亀病院は守衛がいるので、24時間受入可能(住民も避難可能) <p>●職員との連絡/職員の安否確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難準備情報発令時、全社員へ確認 ・災害発生時には、職員へ安否確認メールを送る ・県立の病院関係では連絡システムが整備済み <p>●職場の水防活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告では復旧のために待機、避難指示で避難 <p>●事業所による避難判断や避難誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難準備情報発令時、会員企業と地域住民に避難場所を周知 ・丸亀病院に住民が避難してきても、外科の医師は不在(外科処置ができない、軽傷はOK) ・丸亀病院では県の防災行政無線により、災害情報の受受は可能(土器川の情報は遅い) 	<p>行政への要望(公助)</p> <p>●リアルタイム情報の伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風や雨の予測と一緒に水位の予測がほしい ・過去のデータで予測ができないか ・雨、水位、潮位の関係を住民に周知 ・防災ラジオの全戸配布 ・地域コミュニティFMを放送してほしい ・河川水位モニターを増設し情報公開 ・祇川橋の水位情報と土器川下流水位の関係を知る方法 ・祇川橋と蓬萊橋の間の水位情報がほしい ・水位は激しい雨の降り始め前から公開 ・ケーブルテレビが放送してほしい ・広報車の活用(広報車を頻繁に走らせる) ・連絡網の強化(一度に多人数が情報を把握する方法) ・避難指示をアラートでテレビやラジオに割込 ・エリアメールでの情報発信 <p>●避難に関する情報・支援・連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が行動を起こせる明確なトリガーがほしい ・水位情報と経験が結びついていない ・安心キットの全戸配布 ・要配慮者へ早めに連絡し、避難準備をしてもらう ・学校と行政との連携 <p>●避難勧告等の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線のサイレン音量が小さい ・難しい言葉を使わず、急を要する短い言葉(アブナイ、キケンなど)を使った方が良い ・空振りは良いこと、住民は怒ってはダメ <p>●避難所の情報や運営方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域避難とは、どこまでか ・避難所のカギをいつ開けるのか ・避難所に行った時の人との関わり方 ・避難所の収容人数も問題 <p>●一次避難所の指定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香川県中讃保健福祉事務所を指定 <p>●土器川の河川整備・堤防点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防の巡視強化 <p>●防災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供に情報や災害の学習(ワークシヨップ)

【検討－2】充実した共助のために

【検討－2】共助による重点対策の具体的な取り組み検討

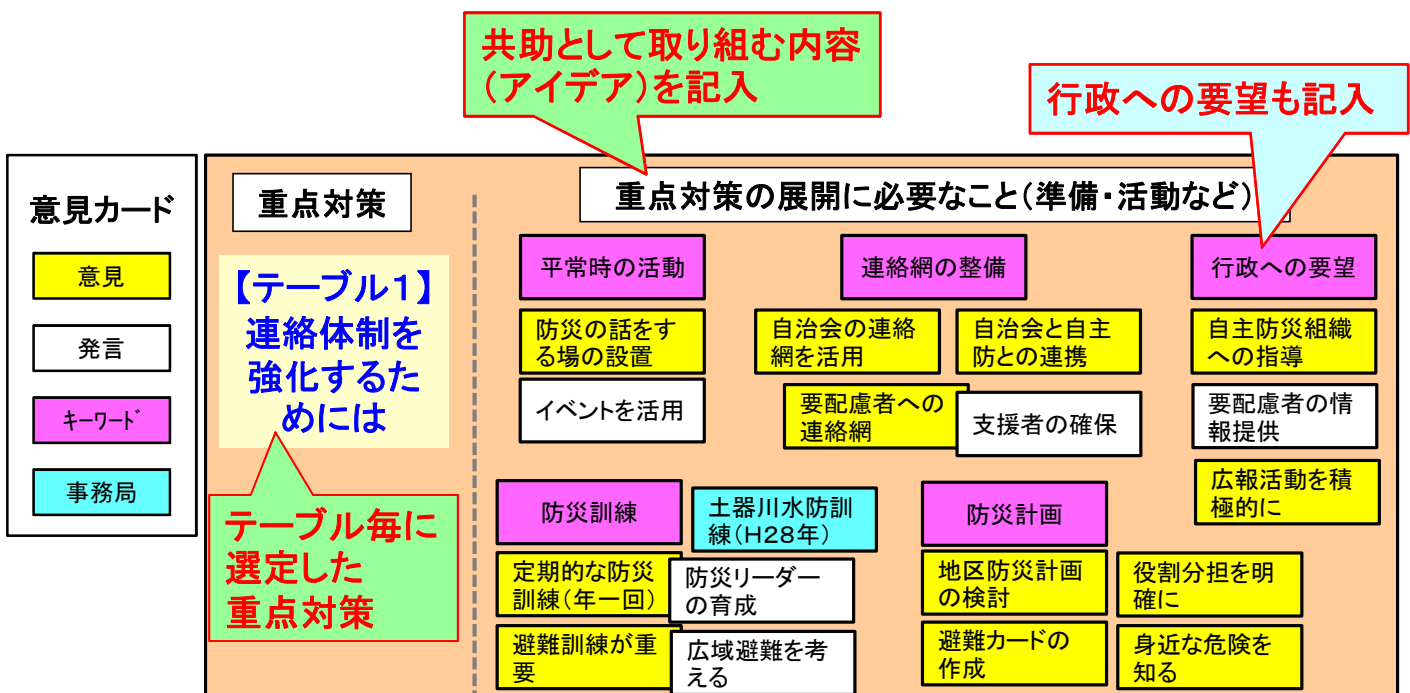
～各テーブルで、重点対策を検討します～

- ・第2回ワークショップの意見を踏まえて、重点対策5項目の中からテーブル毎に1項目を検討（項目はあらかじめ事務局にて選択済）

テーブル	重点対策5項目 (共助による取り組みが必要な5項目)	意見が出た テーブル
1	災害時要配慮者の避難支援・誘導を行うには	1, 3, 4
2	地域コミュニティを活性化するためには	2, 3
3	避難所の開設準備や運営で支援できることは	1, 2, 3, 4
4	地域コミュニティ(自治会・自主防災組織)内の連絡体制を強化するためには	1, 2, 3, 4
5	事業所としての地域支援の具体策は	5

～“重点対策”を展開するために

必要なこと(準備・活動など)を考えてみます～



【検討－2】具体的な取り組み案

重点対策	具体的な行動内容(アイデア)	
<p>1) 災害時要配慮者の避難支援・誘導</p> <p>【テーブル1】</p>	<p>①災害時要配慮者の定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ■高齢者、障害者、独居者、他人の助けがないと避難できない人など <p>②災害時要配慮者の情報開示・把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ■要配慮者の情報開示 ■対象者の事前調査 ■家族構成の調査 <p>③支援体制の確立／支援者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ■担当者の選任 ■支援者の役割分担 ■当番制での支援 ■自治会単位での支援 	<p>④災害時要配慮者の避難支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ■要配慮者の情報分析 ■平常時からの「早期避難」の周知 ■避難可能場所の確保(マンションの活用など) ■【公助】道路の交通規制(一方通行など) <p>⑤災害時要配慮者への防災学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ■防災学習の実施(老人会の集会などで周知) <p>⑥自主防災組織の体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ■役割分担の明確化 ■事前に集合して組織化(早めの行動)
<p>2) 地域コミュニティの活性化</p> <p>【テーブル2】</p>	<p>①地域コミュニティの組織体制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ■旧来住人と新規住人の交流 ■コミュニティ活動の収容力アップ ■組織間の横のつながりの強化 ■「防災」の名もとの顔合わせ <p>②防災活動・防災訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ■自治会長対象の防災訓練の実施 ■防災活動を通じて活性化 <p>③交流活動の実施／イベントの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■自治会同士の交流 ■土器川水防のパネル展示 ■「やよい祭」で人を集めて活性化 	<p>④広報活動の実施／メディアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■HP開設による情報発信(「住みたくなる土器」HP作成中) ■コミュニティ情報誌の配布 ■マスメディアを活用した広報 <p>⑤地域情報の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ■寄り合い等で地域情報の周知・案内 ■地域の危険箇所の提示 ■【公助】河川整備・堤防整備の実施
<p>3) 避難所の開設準備や運営の支援</p> <p>【テーブル3】</p>	<p>①連絡体制・連絡手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ■連絡網(電話、メール)の再確認 ■無線(ハンディ)などの活用 <p>②避難のための事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■防災準備の話し合い ■避難所への備蓄品設置の活動 <p>③避難所運営訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ■HUGの活用 ■小学校や自主防災組織での訓練 	<p>④避難所の運営方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ■避難所での役割(リーダーなど) ■受付のシステム化(PC準備) <p>⑤避難所での必要物の準備・持込</p> <ul style="list-style-type: none"> ■必要物資(毛布、段ボール、食料品など)の用意・持込 ■AED設置 <p>⑥地域コミュニティ主体の避難所運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ■食事の準備 ■物資配給の手伝い ■受付・接待 ■会場の片付け
<p>4) 地域コミュニティ内の連絡体制の強化</p> <p>【テーブル4】</p>	<p>①連絡網・連絡手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ■連絡網の充実 ■メール一斉配信システムの構築 ■一斉メールやHPでの情報共有 <p>②学校や事業所との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学校メールの利用 ■連絡網に会社を追加 ■学校単位の連絡網 <p>③役割分担の設定／担当者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ■要配慮者の担当者の選任 ■民生委員の活用 	<p>④自治会に加入していない住民への対応／自主防災組織による対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ■自治会への参加の呼びかけ ■【公助】自治会への参加要請 ■情報共有できる場の設置 ■自主防災組織の充実 <p>⑤交流会・勉強会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ワークショップ、交流会、勉強会のコミュニティ・自治会単位での実施
<p>5) 事業所による地域支援</p> <p>【テーブル5】</p>	<p>①協議会の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ■協議会(検討の場)の設置 ■団体(会)から行政への要望 <p>②資機材や場所の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ■避難場所との契約連携 ■ヘリコプター発着場所(丸亀病院) ■車両や場所(土のうスペースなど)の提供 <p>③避難支援・避難誘導の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ■構内放送の活用して避難場所への誘導 ■会員企業への情報発信 ■来客者や障害者(社員)の避難誘導 ■【公助】避難所への連絡対応 	<p>④BCP対応と地域支援の配分調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ■BCP(会社を守ること)を考えた上での協力・支援(力の配分) ■企業・市・住民の三者協力体制 <p>⑤災害復旧の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ■BCPによる災害対応 ■災害復旧時の応援 ■広域応援

【検討-1】意見カードの結果(テーブル1)

タイムライン意見

自助	共助	公助
<p>避難開始時間 1</p> <p>避難開始時間は？</p> <p>24時間前では早すぎる</p> <p>水位の状況 2</p> <p>雨10mmで、すぐ水位が上がる</p> <p>水はけの状況は？</p> <p>経験のない状況での避難。</p> <p>危機感をおおる。避難開始を早めるため</p>	<p>避難の判断情報 3</p> <p>きっかけ 情報</p> <p>避難の判断には、土器川の水位状況が大きな要素(台風状況だけでは判断しにくい)</p> <p>水位の情報が欲しい。台風情報だけでは判断が出来ない。</p> <p>情報の出し方が難しい。広報車等</p> <p>防災無線の音が聞こえない。</p> <p>台風と一緒に水位予想があるといい</p> <p>雨予想と水位の予想が欲しい</p> <p>過去のデータで、予想が出来ないか</p> <p>雨、水位、潮位の関係を住民に周知</p> <p>台風情報のみでは避難しない</p> <p>避難行動を起こす場合、土器川の水位、雨量等の情報にて判断</p>	<p>堤防の被災場所 4</p> <p>堤防を水が越える所がわかれば、対応が出来るのではないかな</p> <p>堤防の弱い所を周知</p> <p>堤防で弱い場所を知らせる。</p> <p>水位と避難行動の内容が示されるといい</p> <p>水位による避難判断。どの時点でどうするか</p> <p>被災等の言葉の意味を共有</p> <p>特別警報が出た。避難のタイミング</p> <p>確認すること 5</p> <p>下校時間と(注意報・警報)の確認</p> <p>警報と学校連絡の関係は？</p> <p>警報が出た時、学校に居る時、下校させない</p> <p>登校前に警報出る</p>
	<p>避難の判断情報 その2 6</p> <p>きっかけ 情報</p> <p>避難準備情報の確認は？</p> <p>いつ堤防がきれるかわからない</p> <p>香川だけど高知の水害情報を見るとよいのでは</p> <p>「早めの避難行動」-5~9はOK</p> <p>どんな情報がでたら、行動ができるのか</p> <p>報道による情報。どの時間で避難するか？</p> <p>行動の決定 7</p> <p>各情報で最終は、自分の判断により行動する。(常時、適格な判断が出来る様)</p> <p>台風の速度の関係(高知→香川)</p>	<p>垂直避難の場所 8</p> <p>垂直避難場所の確認</p> <p>まよいがあれば垂直避難</p> <p>住民が行動をおこすトリガー 10 ☆</p> <p>住民が行動を起こせるトリガーが、はっきりほしい。</p> <p>水位情報と経験が結び付いていない</p> <p>避難準備情報があっても、実際に経験がないので、行動がしにくい</p> <p>経験のない状況での判断</p> <p>高松1000円、宇多津のみ3500円/台 ラジオー電源 全戸 /丸亀=CVT</p>
	<p>近隣の避難場所づくり 9</p> <p>避難場所はより近くを、再度確認</p> <p>避難場所を個々に決めておく。近い場所</p>	

重点対策

重点対策の展開に必要なこと(準備・活動など)

【テーブル1】災害時要配慮者の避難支援・誘導を行うには(共助)	要配慮者とは？	丸亀市の持っている情報は	対象者の早い避難必要	対象者の事前把握	早めの避難をすすめる	早く避難場所をあける	対象者への避難教育	本当に支援できるのか対応組織で対応	タイミングと時間	通行制限
	<p>高齢者の夫婦</p> <p>高齢夫婦 障害者 独居 耳きこえない</p> <p>障害者(耳、目) 独居者</p> <p>目がみえない車イス</p> <p>年齢で決める</p> <p>要配慮者は、他人の助けなくしては避難できない人で、回りに助けがない人</p>	<p>要介護者、要支援者の情報開示</p>	<p>要支援者を早目に避難させる</p>	<p>事前に対象者を調べておく。確認</p> <p>要配慮者の担当者の事前決め。</p> <p>支援担当の分担</p> <p>要配慮者を当番制で支援する</p> <p>自治会単位で</p> <p>自治会ごとに支援</p> <p>家族構成を調べる</p>	<p>要配慮者の情報(家族構成・配慮の状態等)を適格につかまなければ避難冷えんが難しい</p> <p>避難も長時間前でもスムーズにできるのではないかな</p> <p>要支援の必要の無い処へは支援に行かない</p> <p>「早く避難」を平常時から周知</p>	<p>避難場の開設後でなければ...</p> <p>マンション活用(避難準備情報前)</p> <p>避難可能な場所を事前に確保する(公施設以外)</p> <p>避難勧告が出た時点で要配慮者を避難させる。</p>	<p>要配慮者の把握が十分でないので、老人会等集まりで防災教育をして周知する</p> <p>要配慮者の把握が十分でないので、老人会等集まりで防災教育をして周知する</p>	<p>避難の段階になると、自治会・自主防災も他人のことが出来るかどうか問題。</p> <p>有事の取り決めがないといけない。</p> <p>自身のことを後回しできるのか？</p> <p>要支援の者に有事の場合、自治会等が支援に行けるか意識づけ</p> <p>自主防災会の設置には危機意識が必要</p> <p>自治会・自主防災に役割分担させるには、事前に体制づくりとその体制の構成時期を明確にしておく</p>	<p>自助の為に共助は早目にしたいい</p> <p>-24hr</p>	<p>車で移動する場合、道路を一方通行にする。</p>

「意見カード」の使い方

必要な場合		必要な場合	
①意見	②発言(補足)	③事務局等	④キーワード
(参加者が記入)	(記録者が記入)	(記録者が記入)	(補助者が記入)

要支援者を支援するために、自主防災会を作る

自治会長と自主防災会は、同一人でないと駄目なのか？

高齢者ばかりの自治会の支援は

【検討-1】意見カードの結果(テーブル2)

タイムライン意見

自助	共助	公助
<p>家族避難</p> <p>自宅の家族での避難</p> <p>避難勧告が出たタイミングで家族連携</p>	<p>周囲の人の避難</p> <p>共助（弱者）は時間がかかる(避難)</p> <p>自助 自分が避難していないのに動みにくい…</p> <p>避難しない住民を迎えにきた人が被災するおそれあり</p> <p>自分が逃げてないので説得力ない</p> <p>避難勧告のタイミングでも、協力をえられないかも</p> <p>避難ギリギリで、一気に動く</p> <p>一晚避難所で過ごせば意識かわる</p>	<p>地域コミュニティ</p> <p>地域コミュニティFM放送してほしい</p> <p>避難所</p> <p>土器コミュニティセンターしかない</p> <p>建物高、高い保健所を指定</p>
		<p>情報</p> <p>河川水位モニターを増設と情報公開されたい</p> <p>祓川橋の水位情報と土器川下流の関係を知る方法</p> <p>祓川橋と蓬萊橋の間の水位情報がほしい</p> <p>水位は激しい雨降り始めから公開(注意報)</p> <p>ケーブルテレビが放送してほしい</p> <p>河川巡視</p> <p>堤防の巡視強化</p> <p>気象情報</p> <p>台風の進行方向によって雨の降り方異なる</p> <p>潮止堰が閉じて上流からの雨が流れない</p>
		<p>サイレン音</p> <p>津波避難訓練時のサイレン音量が小さい</p> <p>意識しないと、サイレン聞きとれない</p> <p>サイレンの種類音の出し方、連続、継続…と長さ11/29津波60秒</p> <p>警報サイレンの音が小さい。調べて増加して欲しい。</p> <p>広報車</p> <p>広報車の活用</p> <p>警報が出たタイミングで</p> <p>12時間前に広報車、頻繁に走らせて</p>

重点対策

【テーブル2】
地域コミュニティを活性化するために
は
(共助)

重点対策の展開に必要なこと(準備・活動など)						
<p>コミュニティ成立</p> <p>新しい宅地では、自治会がないいかに巻き込むか</p> <p>旧来からの住人と新規住人との交流</p> <p>コミュニティ活動への収容力が大事</p> <p>「防災」の名のもとに顔合わせ、まちづくりをしていく。</p> <p>土器コミュニティ</p> <p>土器コミュニティは、自治会に限らず地域全体での活動</p> <p>自治会長対象の防災訓練の実施</p>	<p>堤防</p> <p>堤防が決壊する想定がない町にすべき</p> <p>土器川河川敷整備進んでいる。堤防整備も進めてほしい</p>	<p>イベント</p> <p>やよい祭で人を集めて活性化</p> <p>土器川水防についてパネル展示</p> <p>自治会同士の交流イベントなどが必要</p>	<p>メディア活動</p> <p>HP開設し、情報発信</p> <p>「住みたくなる街土器」のホームページ作成中</p> <p>土器さんさん(地域紙)やイベント案内の掲載</p> <p>地域の危険箇所の提示</p> <p>自治会や公共機関を通じてコミュニティ誌配布</p> <p>HP見れない人はどうする？</p> <p>寄合で地域情報の周知・案内</p> <p>マスメディアの活用</p> <p>新聞、ローカルニュースを使った広報(記者の目で情報発信)</p> <p>新聞掲載の実績を地域にPRする</p>	<p>防災活動</p> <p>避難用鉄塔を作って経験をしてもらう</p> <p>防災活動を通じて活性化</p>	<p>コミュニティ体制</p> <p>コミュニティ=組織の連動体</p> <p>コミュニティの組織体制の見直し(横のつながりを大事に)</p> <p>自治会中心のコミュニティではなく、各コミュニティ(PTAなど)の横のつながりを強める</p>	<p>外国人への広報</p> <p>外国人や新規住民も参加しやすいように</p>

「意見カード」の使い方

必要な場合		必要な場合	
①意見	②発言(補足)	③事務局等	④キーワード
(参加者が記入)	(記録者が記入)	(記録者が記入)	(補助者が記入)

【検討-1】意見カードの結果(テーブル3)

タイムライン意見

自助		共助		公助	
避難時に必要な物	避難方法	避難場所(民間)	人づきあい	分かりやすい言葉(用語)	行政の言葉に耳をかたむけよう。住民の為に動いてくれています。
乾電池・ラジオ携帯しておく	避難時、車で行くか歩いて避難するか。	近所の個人宅3Fへ避難。	近所に声かけ手助け	指示だと全員避難しないが、命令だと避難すると思う	指示、勧告言葉が分からない
足元に気を付け、長ぐつを用意。防寒服・雨具も	雨の状況、距離、時間によって変わる。	事前に了解をもらっておく	となり近所、災害他、声かけやすいような体制を作っておきたいです。	広域避難とは、どこまでか？	むずかしい言葉を使わず、アブナイ、キケン、急を要する短い言葉を使った方がいいと思います。
自分のバイオ情報を持つ(血液型、病歴)	情報収集	自宅がダメな場合、集会場(自治会場)もダメだと思う。			
自分の身の回り品の持ち出し(保険証・薬など)	ラジオ、テレビで、情報を持つ意識が必要				
安心キッドを全家庭に配布するようにしたらと思います。		手だすけ出きる道具			行政からぶりは良いこと住民は怒ってはダメ
「安心キッド」は家族に1本は必要だ。		人を背おうリュックを用意			非常持出物リスト記載
自分で持って行く		階段がある			避難する時、持って行くといい物を、表示してほしい
救助要請旗を作る		アマ無線所持者協力者			人により具体的に考える必要
避難ズミ旗を出して避難。					非常持出しをいつも点検。玄関先に置いておくように呼びかけする。
				避難場所(公共)	
				要介護者の方に早目に連絡して、行動の準備をしてもらう。	
				避難所のカギ(夜間の場合など)どうする？	避難場に行った時の人のかかわり方。
				避難所のカギをいつ開けるか。	
				要配慮者がいる避難は準備であける	

重点対策

【テーブル3】
避難所の開設準備や運営で支援できることは(共助)

重点対策の展開に必要なこと(準備・活動など)

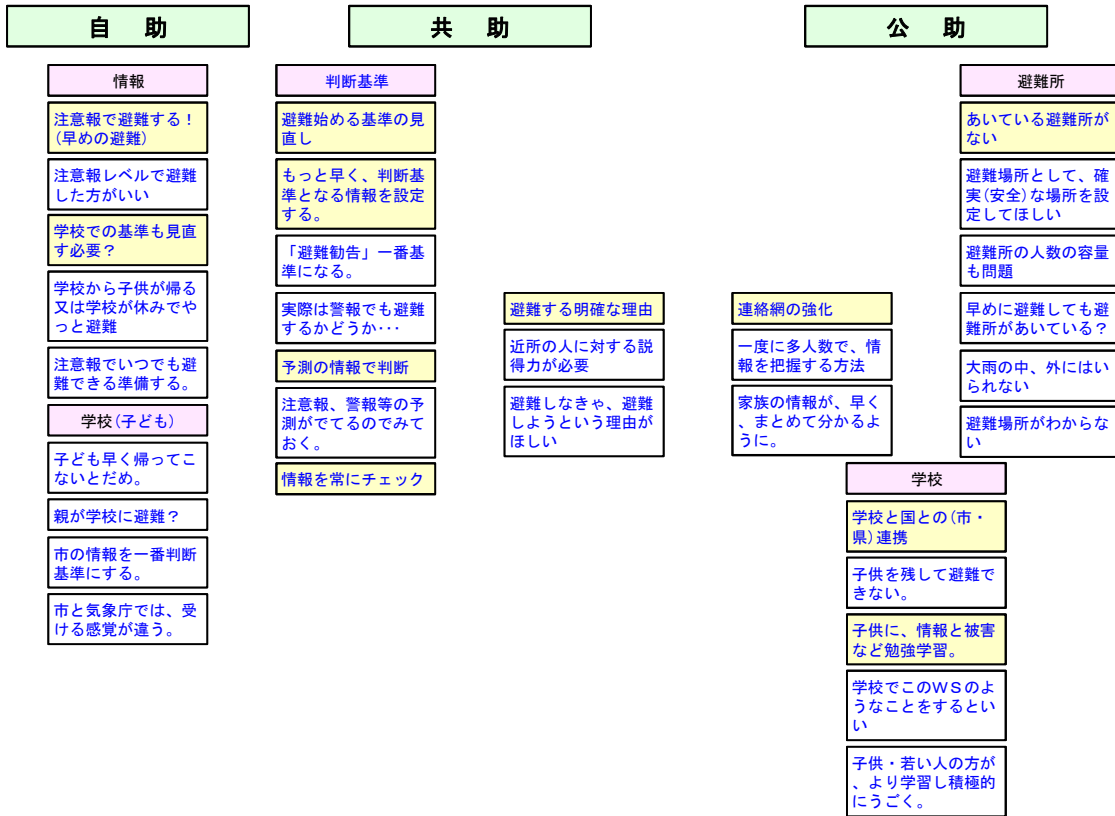
事前準備			実運営		人的救助
情報共有	訓練	情報入手方法	避難所での必要物		会場の片付け
避難所のカギの持ち主を知っておく。	HUGの活用	情報手段としてのハム(ハンディ等)	毛布、シーツ、段ボール用意持込		体力(労力)の提供
自治会 防災会の連絡網TEL、メールを再確認する。	訓練に積極参加		各人からの提供も受付		
個別準備	防災士会等開催 小学校、自主防	避難所での運営	おすそわけの気持!		
自治会で防災準備を話し合う。	準備物(必要な物)	スムーズな運営	(食事)皆に、ごはん作(オニギリなど)に協力		
各家庭に防災品 PR	備蓄しておくものを、避難所は設置してもらえるように活動	まず、その場で役割を(人名)リーダーを決める。	食物の準備をする。		
	防寒ズキンを作っておく	各自の場所の広さは適切かを調べる	食事の準備・手伝い。		
		避難受付(受付表等)システム化(PC準備)	地域で、食事班をつねづね、その場の為に、心掛けておきたい		
			食料品、水、菓子類、敷物、マット類を持っていこう		避難所にはAED設置
			むすび、飲物の用意		カギはかけない 常に使えるようにしておく
			お接待、おもてなしが必要。おせっかい?		
			身の回り品の配布の手伝い(毛布、食料品)		

「意見カード」の使い方

必要な場合		必要な場合	
①意見	②発言(補足)	③事務局等	④キーワード
(参加者が記入)	(記録者が記入)	(記録者が記入)	(補助者が記入)

【検討-1】意見カードの結果(テーブル4)

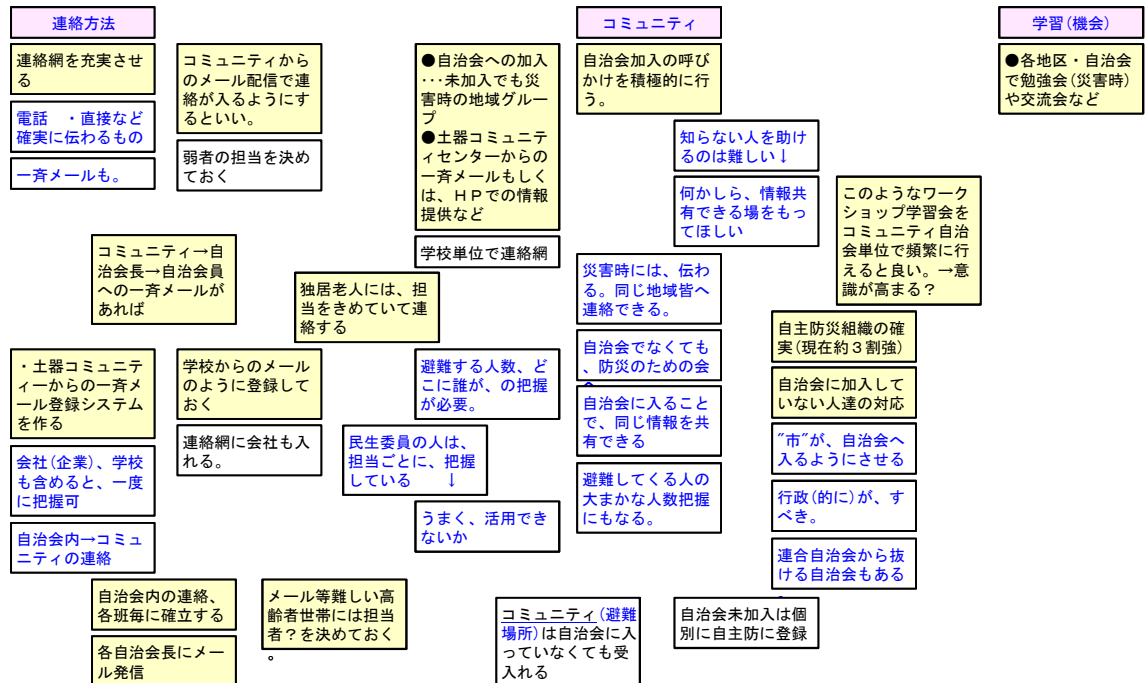
タイムライン意見



重点対策

【テーブル4】
地域コミュニティ(自治会・自主防災組織)内の連絡体制を強化するためには(共助)

重点対策の展開に必要なこと(準備・活動など)



「意見カード」の使い方

必要な場合		必要な場合	
①意見	②発言(補足)	③事務局等	④キーワード
(参加者が記入)	(記録者が記入)	(記録者が記入)	(補助者が記入)

【検討-1】意見カードの結果(テーブル5)

タイムライン意見

自助		共助		公助	
広域避難	事業継続をはかりながら、避難準備(用意)。	避難情報	丸亀病院における要配慮者は、入院患者様になる。垂直避難で対応する	避難情報	丸亀病院では県の防災行政無線により、災害情報の收受は可能である。
他の自治体施設への避難	事業所での自助(BCPを図りながら)	潮の干満時間情報	垂直避難(2F)~3m以下		
対岸(左)への避難	土砂災害	満潮時は、水害となりやすい	病院ということで市民の方が避難してきても、外科の医師は不在。医療器具もない。		土器川の情報は遅い
避難場所の選択は自主判断	青ノ山の避難については個々の判断で避難	避難準備情報が届かない現場にいる	外科処置が出来ない。軽傷はOK		
城北小学校への避難	土砂くずれの判断は状況による	早めの行動⇔避難行動 ↑ 勧告で良いのでは	連絡網		
県健康福祉センター3階建て?へ逃げる	市は開設できない	勧告での避難行動で良いのでは?	準備情報発令時に会員企業、地域住民に避難場所周知		
	青の山の土砂くずれの情報が必要	(自助)準備情報時、全社員へ確認:(所在・準備)	共助 会員企業へ周知(避難場所)		
	青の山保育所の扱い土砂くずれで開設できず	避難経路	地域住民との連絡も必要(自治会)		
	避難所の開設にも時間がかかる	土器コミュニティセンターの避難場所については、避難する経路が非常に危険ヶ所が多いため?	連絡網↑		
一次避難所	から振りて行政を責めない	避難経路は、状況によって個人判断	病院は、守衛がいるので、入口のドアを開けることは24時間可能		
一次避難所の確認	避難指示をJアラートでTV、ラジオへの割り込み	避難所までの経路の確認	住民も避難可能		
エリアが近い・狭いので歩く。	エリアメールでの情報発信	確認するタイミングが難しい	災害発生時には、携帯へ職員安否確認メールを送り、職員はそれに回答するようになっている。		
勧告:復旧の為に待機指示:避難	災害情報メール情報を選択		(県立)病院関係は整備されている		

重点対策

重点対策の展開に必要なこと(準備・活動など)

【テーブル5】事業所としての地域支援の具体策は(共助)	避難先(受側)との確認 [米澤]	災害復旧	避難情報	企業設備提供	企業の対応	広域避難	行政への要望
	避難場所(受入)との契約連携をとっておく	災害時の対応も、事業の内	構内放送を有効し、避難場所へ誘導する パブリック	車両の提供。	BCP	大東川の氾濫もあり、宇多津も浸水	レベル3警戒時、行政より避難所への連絡対応
事前準備	災害復旧時の応援はできる(災害時は難しい)	クリントピア丸亀へ	限定的な避難場所の提供。	会社を守ることを考えた上での協力		市の職員も在る。	
病院の運動グラウンドが、ヘリコプターの発着場所になっている。	広域応援	お客さんの誘導	準備段階:場所の提供	BCPも考えた災害対応が必要(力の配分)			
災害時に使用可		障害者(社員):避難出来る		企業-市-住民の3者協力体制			
土のうスペース		会員企業への情報発信					
周知、広報の手伝い、避難所。							
協議会を設置し、検討する。							
会へ所属するメリット							
行政への要望も団体(会)であれば出しやすい							

「意見カード」の使い方

①意見	②発言(補足)	③事務局等	④キーワード
(参加者が記入)	(記録者が記入)	(記録者が記入)	(補助者が記入)